

令和5年度農林水産省行政事業レビュー（公開プロセス）の結果
 浜の活力再生・成長促進交付金
 <取りまとめコメント>

事業の課題や問題点	事業の改善の手法や見直しの方向性
● 事業タイプごとのロジック整理と、長期アウトカムに対して、具体的に短期アウトカム、中期アウトカムの設定が課題。	● 所得10%向上という他の要素も絡む長期アウトカムに対して、目標達成できた地区の割合が低くなっていることについて、本事業自体の成果を測れる管理指標も置いたほうがよいのではないか。
● 同上	● 短期～中期アウトカムで、収入向上策、経費削減策について、既存の分かりやすいものばかりでなく、各地の工夫を呼び起せるような他の指標も入れ込んでどうか。
● 短期～中期のアウトカムに一定の型（タイプ）が示された一方、長期アウトカムに向けては、論理の飛躍が見られる。現場視察で拝見した例では、従来業務の時間削減ができたことで、別の業務（飲食、加工）に専念でき、その結果として漁業所得が向上したと伺ったが、こうした他の施策との連携も含めて、効果発現の経路を更に丁寧にしておく必要がある。こうしたことを見逃せば、事業の目的である漁業所得向上（本来は、漁業者の給与向上や雇用拡大、投資拡大に直結する付加価値額の向上かもしれないが？）とは逆の方向性の結果をもたらすことになりかねない。	● 効果発現の経路を刻んで見ること、また、適切なKPIの採用が肝要である。水産庁として本来目指すべきアウトカム、インパクトがぶれないよう、これに向かって矛盾のないメッセージの発信、ロジカルで丁寧な検討を進められたい。
● 長期アウトカムが所得向上という非常に大きなものなので、短期・中期アウトカムの設定が難しいのではないか。	● 生産量増大や作業時間削減等定量的なものと合わせて、定性的でも構わないので、例えば作業時間削減によりその時間がどこに振り向けられ、どんな新たな付加価値が生み出されたかを把握することを試みてはどうか。
● 本年のレビューでは「政策効果の発現経路と目標をロジカルに説明し、事後的にデータに基づいて見直す」ことができるよう、やりとりを進めてきたが、ロジックモデルの改良と共に参考資料①として詳細版も提出された。それぞれの施設整備のアクティビティに応じた効果発現の経路を想定したもので、その取組は評価したい。	

事業の課題や問題点	事業の改善の手法や見直しの方向性
● 施設整備以外のアクティビティが所得向上等につながっていることが明確に示されていないと考える。	● 本事業がもたらす効果、それに至る過程、他事業等との関係をより精査する必要がある。
	● 漁村において、当該事業や他事業をどのように利用し活かすか、工夫することが、本事業の効果を高めることに大きく関わると考える。浜プラン含め、事業効果をより高めるために、金銭面以外の支援が重要である。
	● 女性が主体的に漁業に参加できる状況が、漁業関係者の認識や設備等の環境において、より整うことを期待する。
● 各漁協で浜プランを実行する初期・基礎条件に大きな違いが存在するため、そうした違いをある程度反映したアウトカムの設定が必要ではないか。	● 浜プランや研修会等の内容を漁協や地域自体が自ら考える、また漁協・漁村が相互に学習し合う場や機会の提供などが大切である。
● それぞれの地域における「浜プラン」が最新の技術動向や経営モデルを踏まえて効率的・効果的なプランになっていることが、この事業の効果実現の肝であり、作成支援を更に意識していくことが必要。	● これまでの地域間交流、水産試験場からの指導、優良事例情報の普及などの取組が十分にプラン作成に効果を持っているかを確認し、更に改善できる点を検討して事業の枠組みに明示的に入れてほしい。
● デジタル化について、知識習得が最終ゴールでないはずであり、それを活用してICT化されて、事業の効率化・人手不足問題の解消・売上向上等、所得向上に結びつくところまでが不明。	● 普及員のための費用とのことであるが、デジタル化については他の事業と連携して、実際に所得向上に結びつく効果を生んでいるかについても、見える化できる工夫をしてはどうか。
● デジタル化の研修はこの事業に関するロジックモデルの中では、アウトカムとして具体的に何が実現されるようになるのかが不明瞭。	● （回答にあったように）他のDX事業に入れ替えるなどをして、デジタル化として具体的に何を実現するのかが明確になるようにしたほうがよい。